

サモア独立 60 周年記念式典・サモア JICA ボランティア派遣 50 周年記念式典での北岡特別顧問のご挨拶【於：東京】

本日、サモアの独立 60 周年を皆様と共に祝い出来ることを大変光栄に思います。また、この特別な会で、サモアにおける JICA ボランティアプログラムの 50 周年も共に祝いして頂けることに心から感謝いたします。さらに、2000 年代半ばに、国連においてアジアグループのメンバーとして共に活動して以来の友人であるシラ大使と共に、この場でお祝い出来ることを私自身大変嬉しく思います。

2018 年 4 月、私は、JICA 理事長としては初めてサモアを訪れました。それ以前にも、私はルイス・スティーブンソンやマーガレット・ミードの作品を通じてサモアのすばらしさに触れており、実際に訪問した際には、サモアは大変素晴らしい国で、とても強い印象を持ちました。今日、皆さんとこの美しい国についてお話出来ることを大変嬉しく思います。

近年、法の支配に基づく自由で開かれた海洋秩序の実現や、地域の連結性を促進することの重要性は益々高まっています。また、厳しい安全保障環境や気候変動によるリスクをはじめとする様々な脅威を取り除くことで、私たちは安定と繁栄という目標を共に達成することが出来ます。

現在、サモアはポリネシア諸国のリーダーであるだけでなく、太平洋島嶼国における地域協力の中心的な拠点となっています。さらに、サモアは太平洋・島サミット（PALM）においても、その開始当初から重要な役割を担ってきました。

来年 2023 年は、サモアと日本の国交樹立 50 周年にあたります。太平洋で結ばれた島国であるサモアは、太平洋島嶼国の中でも日本にとって最も大切なパートナーの一つです。サモアが独立以来、私たちは自由と人権という価値観を共有し、友好関係を維持しています。サモアと日本の関係は、力強く、そして結果的に成長し続けているのです。

JICA のサモアへの協力は、1972 年、世界で史上 15 番目、また、太平洋島嶼国の中では初めて青年海外協力隊が派遣され、我々の協力が始まりました。その後、1988 年に JICA サモア事務所が設立されました。以来、JICA は廃棄物管理、気候変動、人材育成の分野を中心に、様々な協力を継続的に実施しています。JICA がサモアで行っている事業の中で、最も存在感を示してきたのは、50 周年を迎える JICA ボランティア派遣事業です。

ここでサモアへの JICA ボランティア派遣の約 50 年の歴史について概要をお伝えしたいと思います。

最初のボランティアは、1972 年派遣の山川 精一（やまかわ せいいち）さんという土木施工を専門とする隊員でした。タヌガマノノ発電所の建設プロジェクトに従事するために派

遣されました。タヌガマノノ発電所は、2013年に新たにフィアガ発電所が完成し、発電所の機能を移管したため、現在稼働していませんが、サモアの安定した電力の供給に大きく貢献しました。

サモアへの隊員派遣数は、この50年間の間に累計676名に到達しており、これまで派遣された分野は、教育、保健、建築、環境、IT、スポーツ等と多岐にわたっています。サモアの人々やサモア国政府の皆様からも高い評価と信頼を頂いていることを大変嬉しく思います。さらに、ここでサモア隊員の活動事例を2つご紹介させていただきます。

1つ目が1977年から1979年に公衆衛生の職種で、フィラリア症対策プロジェクトに従事するためにサモアの保健省に派遣され、サモア初の女性隊員として参加された一盛 和世（いちもり かずよ）先生の活動です。リンパ系フィラリア症は、蚊を媒体とする熱帯病の一つとして知られておりますが、当時サモアでもフィラリア症の対策は大きな課題でした。一盛先生の2年間の活動中、サモア人の同僚と一緒に毎日、村々を回り、蚊のサンプルを集めながらフィラリア症に感染したたくさんの患者の方々をみてこられたそうです。隊員活動終了後、一盛先生は1992年に世界保健機関の職員として再びサモアに赴任され、フィラリア対策に従事されました。現在、一盛先生は、世界中のフィラリア症を含む「顧みられない熱帯病」の撲滅に尽力されております。

2つ目が2016年から2018年にコンピュータ技術の隊員としてサモア気象局に派遣された松村 剛志（まつむら たけし）さんの活動です。松村さんは、配属先の気象局の同僚と協力して、サモアの自然災害の発生をいち早く伝える手段として、天気予報・防災スマホアプリ「サモア・ウェザー」を開発しました。このアプリは、サモアの毎日の天気予報や地震やサイクロン等の災害情報を更新し、サモア国民だけでなく、サモアに暮らす多くの外国人やサモアを訪れる観光客にもいち早く関連情報を伝えることができるため、サモアの防災予防の分野で大きく貢献しています。

現在、サモアへの派遣隊員はコロナ禍により本邦に避難一時帰国後、派遣を再開しておらず、派遣再開についても見通しが立てられない状況にあります。しかしながら、今後サモアの出入国の状況や関連情報を慎重に確認しながら、コロナ禍以前の派遣規模に戻していくことを念頭に進めていきたいと考えております。

サモアを含む太平洋島嶼国の将来にとって、人材育成は特に重要な課題です。JICAは、ボランティア派遣による草の根の人材育成に加え、日本の近代化・開発経験について学ぶ機会を提供する「JICA開発大学院連携」を通して、これまで10名のサモア人リーダーを日本の大学に受け入れています。私は、このプログラムに参加したサモアの優秀な留学生達が、母国の様々な分野におけるリーダーとして将来活躍し、また、それにより、サモアと日本の長期的な二国間関係が育まれていくことを期待しています。

また、JICAは、太平洋島嶼国の地域間協力の中心的な拠点として、サモアと共に、循環型社会の構築を目指した廃棄物管理に係る能力向上や、太平洋気候変動センターを通じた人

材育成等で協力を行っていきます。私たちは、サモアと共に、地域全体への裨益を念頭に、地域の主要課題の解決をしていくために真摯に取り組んでいきます。

本日は、日米両国の協力の歴史を振り返り、両者を繋ぐ、相互理解と絆を深める絶好の機会です。二国間関係をさらに強化し、お互いの理解を深めることによって、日本とサモアの間には永続的な友好関係が築かれることを願っております。

2022 年 6 月 15 日

独立行政法人 国際協力機構
特別顧問 北岡伸一